

あ い さ つ

宮崎県数学教育会会長 添田 佳伸

第69回宮崎県数学教育会 算数・数学教育研究日南・串間大会の研究集録を発刊するに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

まずもって、新型コロナウイルス感染症予防のため、本大会の開催を断念したことをお詫び申し上げます。共催予定でありました日南市教育委員会並びに串間市教育委員会、また後援をいただきました公益社団法人日本数学教育学会、公益社団法人九州数学教育会、さらに研究大会の会場を提供していただく予定でした日南市立北郷小学校の関係各位に対し、改めて御礼申し上げます。

特に、長田靖大会準備委員長先生をはじめ、大会準備委員会の多くの先生方には長期にわたり準備をしていただきました。これまでのご尽力に対し、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。また、ご努力を十分には生かすことができない状況になったことをご容赦願います。

さて、今年4月からいよいよ小学校において新学習指導要領の下での新たな教育がスタートしました。平成28年12月21日に中央教育審議会答申が出されて以来、これまで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて数々の研究・教育実践がなされてきましたが、いよいよ本番が始まったというところです。今年は、昨年度末より新型コロナウイルス感染症の影響で、いつもと違った授業環境、学校運営を強いられているところですが、とにもかくにも新しいカリキュラムがスタートいたしました。

どのような数学的見方・考え方をどのように働かせるのか、どのような数学的活動を子どもたちにさせるのかが現在私たちに問われています。

そのような中、以下のような研究主題が設定されました。

研究主題 「問題解決の喜びを感得する算数・数学教育」

算数・数学の学習は、問題解決を中心に展開されることになっています。その中で喜びを感じる子どもを育むことは、算数・数学の本質に迫るものだと思います。これからの算数・数学教育を考えていく上で、まさに時機を得たテーマであると思っています。今回は、誌上での発表という形になりましたが、本研究集録が皆様方にとりまして大変有意義なものとなり、明日からの実践に生かせることを切に願っています。